

# 都立大塚ろう学校における乳幼児相談の実態調査

(平成29年8月調査:特別区保健衛生主管部長会母子保健検討委員会)

**【目的】**専門療育相談機関の利用者において、新生児聴覚検査後の早期発見・早期療育の状況や、医療機関、自治体とのネットワークについて実態を把握する。

**【対象】**平成27年度及び28年度に都立大塚ろう学校(巣鴨本校、永福、城東、城南分教室の4か所)の乳幼児教育相談(ひよこ組・ことり組・個別支援・訪問指導等)に新規登録された乳幼児 125人

## 【調査結果】

○ 新生児聴覚検査は、6か月未満では22人全員が検査を受けてリファア(再検査)、6か月以上1歳未満では28人中25人が検査ありで25人全員リファア、1歳～2歳では51人中34人が検査ありでうち32人がリファア、3歳以上では24人中13人が検査ありでうち9人がリファアで、年少児ほど新生児聴覚検査リファアが来校相談のきっかけになっていた。3歳以上の児は、親の気づきによる相談が最も多かった。

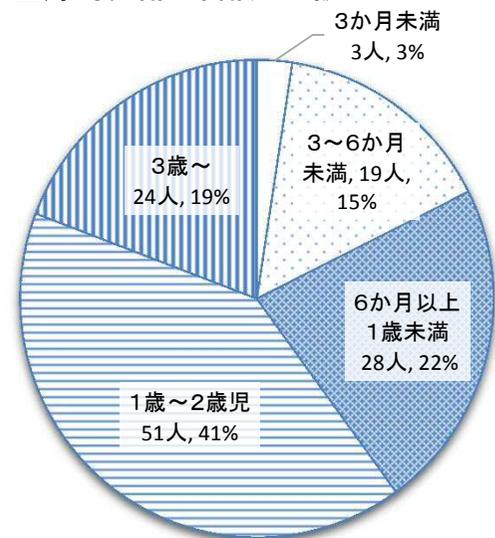
○ ろう学校への来校理由(複数回答)は、医療機関からの紹介90人(72.0%)、新生児聴覚検査でリファア69人(55.2%)が多かった。紹介元あり108人中、2歳未満の児のほとんどは医療機関(耳鼻咽喉科)からの紹介で相談につながっていた。医療機関未受診の児はいなかった。

○ 1歳以上で登録された児には、新生児聴覚検査の結果がパスの児もおり、パスであっても乳幼児健診等でチェックしていく必要がある。

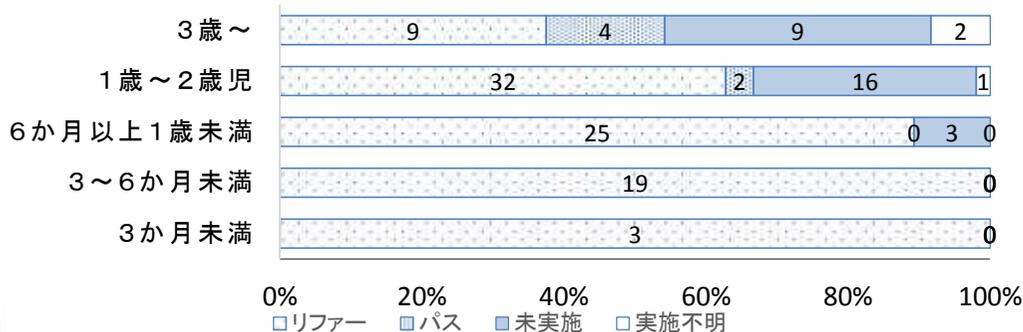
## 【まとめ】

○ 年少児ほど新生児聴覚検査の結果から医療機関にも療育機関(ろう学校)にもつながっており、新生児聴覚検査が難聴の早期発見、早期療育に必要であることが確認できた。

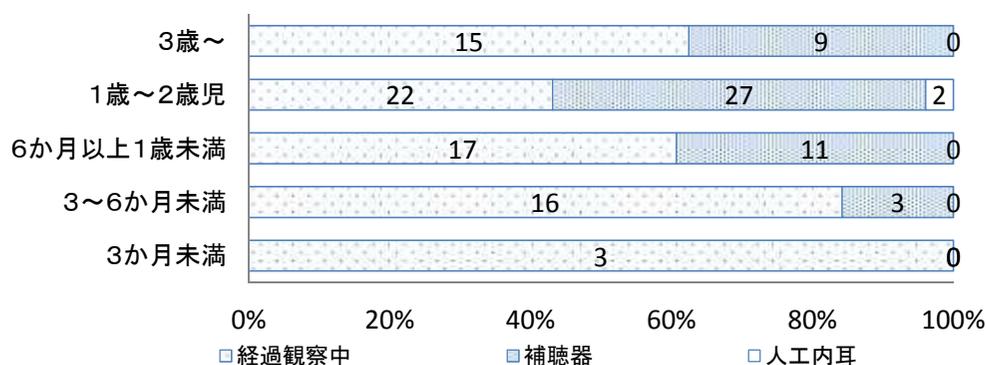
### 新規登録された児の登録時月齢・年齢別内訳



### 月齢・年齢別新生児聴覚検査実施状況



### 月齢・年齢別登録時の治療状況



### 紹介元の内訳

